

## 2016.6.24 「英国の EU 離脱はアベノミクスが成功する証拠だ！」

アベノミクスがこれから成功するという大きな証拠の一つを今日は皆さん方にお話したいのですが、先程ニュースで EU をイギリスが離脱するということが決まった、という国民投票の結果が出ました。これにより株価が上がったり下がったりします。今までは世界経済は自由貿易をどんどんやっていって、人も金も物も関税もなしに自由にやっていったら世界経済は良くなる、という前提でイギリスをはじめヨーロッパのブロックの中で、EU という仕組みを作ったのです。作ったら何が起きたかということ、ドイツが一人儲かっただけであったのです。イギリスは得しているのかということ、移民がどんどん入ってきて、自分たちの地域に仕事が無くなっている。これはおかしいのではないのでしょうか。つまり、会社の論理からいうと、自由貿易してくれるのが一番いいのですが、人間は企業ではないのです。自分たちはやはり故郷で暮らしていているのですから、家庭をもっている訳であります。そういう暮らしを考えると、企業の論理だけでは困る、というのが EU 離脱の一番大きな意味なのです。企業の論理ではなく、家族の論理において何が大事かということ、皆が故郷で代々に渡って暮らしていくためには、自分たちの故郷で仕事が無いと駄目な訳です。農業もそうでありまして、建築・建設業もそうありますが、自分たちの地場

の産業に仕事がないと困る訳です。これがイギリスでは駄目になって来ていたのです。同じことが日本でも起きております。世界と同じように日本でも構造改革をやって来ました。かつては予算を国から地方に渡して、地方の方でも様々な仕事やって下さいということで、地方の予算が結構多かったです。それをこの二十年間どんどん切り詰めていきました。その結果何が起こったかということ、東京は立派になったけれど、地方は全然駄目でありました。挙句の果てに、自民党はその批判を受けて一旦下野することになります。下野する一番のきっかけは九年前の私の選挙でした。参議院選挙で大負けしたのです。私は二番手で当選させてもらいましたけれども、自民党は大負けしました。その時の総理大臣は誰かということ安倍総理なのです。安倍さんはそういうことはよくご存知なのです。あの時は小泉さん路線の延長線上で、新自由主義路線を行っていました。しかし、それでは負けてしまって駄目だということで、今回行っていくアベノミクスでは予算をどんどん使いましょう、ということです。地方創生するためには予算使いますというのがアベノミクスの本質なのです。つまり、今まで言っていた EU の離脱も含めて、企業の論理でやると中央の東京ばかり儲かってしまうのです。そうではなく、地方で仕事ができる仕組みを作りましょう。それがアベノミクスなのです。そしてそのためには具体的に何をするのかということ、例えば、北陸新幹線を舞鶴から京都駅、京都駅から学研を

通って、新大阪駅から関西空港というように大きな交通網、新幹線のネットワークを作っていくということです。そうすると何が起こるかという世界から来る人が日本中旅行することができ、又それぞれの地域でも様々な需要が再び始まってくる訳です。特にこの京都府の南部地域は第二名神からそういう新幹線も含めて、この学研近郊はこれから非常に大きな発展が見込まれる地域なのです。そうすると、ここで皆さん方に仕事をして頂いて、東京に行っている息子さんにもう一度戻って来て一緒に仕事しようではないか、ということができるようになってくるのですね。そういうことを各地でやっというのがアベノミクスであります。これを実行していく為には、一年や二年では出来ません。やはり予算を投入しても新幹線を作るのにも最低でも五年、十年はかかります。長期的にそういう投資をしっかりと行おうという人が総理大臣をしてもらわないと困るのです。それがやはり安倍さんだったのです。そして今回のこの参議院選挙はその安倍政権をしっかりと支える長期政権の行方を占うものがあります。その担い手の一人である二之湯先生がしっかりと一番で通ってもらうというのが大変大事なことになると思います。是非、ここにお越しの皆様方のお力で二之湯先生を一番で通して頂きますことをお願い申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。有難うございました。

文字数 (1835字)